

熊本震災に係る報告書

(総合所見)

(NO1:平成28年4月17日~24日)

報告日:平成28年4月28日

社会福祉法人 翠燿会
特別養護老人ホームグリーンヒル
特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
常務理事 津川 康二

平成 28 年 4 月 26 日

千葉県高齢者福祉施設協会
会長 田邊 信行 様
役員・災害対策委員担当 各位

社会福祉法人 翠燿会
特別養護老人ホームグリーンヒル
特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
常務理事 津川 康二

熊本震災に係る報告書その1(総合所見)

日頃より、当法人の運営に関しまして、ご理解・ご支援を賜り深く感謝いたします。なお、表記のとおり、平成 28 年 4 月 16 日未明より平成 28 年 4 月 25 日未明まで、震災を受けた熊本市へ帰省した際に、別紙のとおり報告いたします。また以下に、私見ではありますが、再度その状況と今後の支援等を記載いたします。

○地震の実態

県内の益城町、南阿蘇地域を中心に未だその被災状況の把握をつかみきれない中、県内での被害等、状況は別紙、ならびに新聞報道の通り。

14 日の地震の際は、まだ大丈夫なのかと不安な中、16 日未明の地震(本震と認定 震度 7 を超える)により、相当の被害が発生。

震源地の益城町を軸に、いくつかの断層帯がひずみをお越し、特にいまなお、熊本県南西部の益城町を軸に北東の阿蘇、また南西の、八代、宇城市などの断層帯沿いが大きな被災がうかがえる。

余震は、私が訪問した 17 日未明が、400 回であったが、25 日現在 900 回にちかい余震を数える。今後も余震状況等を見守る必要があると考える。

○震災の状況とライフラインの実態。

益城町は、5400 棟の全壊(一部含む)の報道。町全体の半数を教えた。県内全域、特に県南西部の被害が甚大で(市内も含む)、当初、自宅等から離れ、避難所へ避難した方々は 12 万人を超えると伺った。市内の小学校や中学校、また指定された避難場所へと非難するが、同時に避難指定されていない場所や、車内での避難など、その実数は理解できていないが、甚大である。

各交通機関の遮断にともない、救援物資がとどかないとの報道はみられたが、

実際は、16日、17日は混乱がみられたが、18日以降、順調に進んでいたと考える。但し、益城町や、南阿蘇地区は、確認できず。基本、自衛隊が懸命に対応。報道のとおりであれば、相当なる被害であり、今後もこの地域への支援が一番大切と感じる。か、余震の続く中、いまだみえない状況も多々ある。自衛隊を中心とした支援活動をまずは見守りたい。その中22日よりボランティアの募集が開始、早々にこの週末のその活動は、被害にあわれた益城町、南阿蘇を中心に力強いものであると実感した。

ライフラインは、現状、益城町と南阿蘇地区は、避難所での生活を強いられ、同時にその実態はみえていない。当然ライフラインの全般に支障があると感じる。熊本県南西部の熊本市出水、益城町周辺の、御船町、甲佐、嘉島、美里町は、わたしの育った町であり、これらの地域でのライフラインは、一部すべて復旧と伺う地域もあるが、自宅(熊本市出水)は、24日現在、電機は復旧、水は復旧するも濁り、同時に水圧が低い。ガスは5月8日復旧にむけて支援と伺うが、未定。という地域も目立つ。いちはやいライフラインの復旧を期待したい。

なお、例として自宅であるが、瓦が崩壊し、その崩壊で玄関が半損。2階は半損、1階の個所はひびなども見られる。ライフラインは上記のとおり。24日に地震保険の調査会社が訪問、3時間の調査が行われ、結果は、口頭で半壊扱いとのこと。今後罹災証明書などを受けて必要な援助を受ける予定。このような状況は多くみられ、今後の支援体制が重要。

○特別養護老人ホーム等の高齢者福祉、介護などの状況

熊本県の北西部に位置する、熊本県荒尾市に熊本県会長(鴻江施設長)の特養がある。17日未明に支援物資を搬送。県会長等によれば、北西部も震災が報道されている状況であるが、どうにか建物等、無事であったとのこと。詳細は未定。16日未明の本震より、九州地区をはじめ、早々に救援物資が搬入、この17日も会長の法人より、市内また益城町等の特養へ救援物資を搬送。わたしの報告にあるが、24日日曜に訪問した際、あの救援物資の量が現行2回転半しており、会長よれば、九州、また全国からのいち早い救援物資の件で、多くの方が救われたことや、なによりも迅速に全国の仲間からこのように対応していただいた気持ちに感謝したいと何度もお話をされた。現状等は、別紙の報告を参照。それ以外で感じたことを以下に記載。

*2次災害、予防の大切さ

私の訪問から毎日、県会長との連絡により、千葉県からはその要望として、感染症等を予防する観点から、おむつふき、ウエットティッシュ、水、そして介護

用手袋(使い捨て手袋)を緊急搬送いただいた。すでに、定員を超えた特養等への利用がある中、同時にこれらの感染症をはじめ、2次被害への予防が指摘されている。今後も対応を要する。

***在宅高齢者、特に単身、老々世帯の増加に伴う、在宅高齢者へのケアについて**
表記した、2次被害への予防は必須。同時にレポートでも示したが、千葉県八千代市の事態でも、高齢者世帯の半数が、単身、老々である世帯である。これらの高齢者の世帯が、上記した状況で被災し、避難所での生活を余儀なくされていると考える。復興にむけた支援として、行政、地域包括、事業所、ボランティア、民生委員などとの協力で、これらの方々の在宅生活を支える仕組みとして綿密な対応を検討要するとのこと。

***救援物資の件、と人的資源の支援について**

鴻江会長より、いち早い、九州をはじめ全国の仲間からの支援に心から感謝と申ししたが、私が1週間滞在して、混乱の中、懸命に対応されてきたというのが実際。鴻江先生の法人だから、またその職員たちだから成しえた業と理解している。つまり、搬送される救援物資を搬入させ、まとめ、支援に必要な物資を再度、車へ運び搬入、その後、軽く市内、並びに県南西部へ片道3時間から4時間かけて搬送したわけで、殆どこの法人の職員はこの1週間以上、不眠不休で尽力していると感じた。会長からは25日にそれらの課題を、県内の臨時役員会を開催し、各地区わり、地区からの支援搬送等を提案予定。期待したい。

その意味で、介護に関する人的支援は後に記載するが、この段階での搬送、しわけをはじめとした業務に、本来は人的資源を派遣し、すこしでも法人の負担を軽減する必要があったのではと反省する。今後活かしたい。

あと、物資は今後、特に益城町等の甚大なる被害の場所への対応が大きく期待される。特に上記した、二次被害を予防すべきための物資を期待したい。

***人的支援**

すべに、利用者の緊急入所による定員オーバーの件など、厚労省より適切に減算なしなどの通知があるが、ここではもっと具体的に。

まず厚労省は、県下で激甚災害の指定を受けたことにより、県内での人的支援は、想定にいれていない。逆にそのようなことは考えていない。鴻江先生からは、1週間経過し、北部にある私たちが、どうにか南部の被災特養に援助と考えても、想定外とされている。つまり県内同志の派遣は結果減算対象である。疑問として挙げておく。もっと現場にそった考えであってもいいかと。当然、その他

人的援助以外の大切なこともあると理解するが、今後の課題と考える。

***避難指定所の件**

各都道府県、市町村など、千葉県八千代市でも災害時の対応として、避難指定所としての契約締結を特養はおこなっている。しかし現状は、まず緊急利用者の対応。定員は増加します。その上で、その他被災者である、在宅高齢者や、単身、老々の世帯また地域包括や、行政、民生委員との連携で、受け入れた場合。1週間はどうにか現状の職員で持ちこたえたとしても、その後の不安は多々あると感じた。つまり、まず職員も被災者であること、当然懸命に頑張る職員はやってくれるとしても長期的な視点では無理な面が強く感じた。

この契約締結には、同時に、法人の職員のみにも頼る契約ではなく、2日から3日したら、このように人的資源をどこから派遣し、対応するなどの仕組みを再考することが大切と感じた。

***介護、看護等現場職員の人的援助など**

熊本県以外からの人的資源の援助は、特に今後、益城町、南阿蘇などに大切になってくる。全国で要検討いただきたい。法的な通知も上記のとおり。

お願いしたいことは、こういうピンチなときこそ、これらの職員へ激励いただきたい。また声にだしてこれらの方々の頑張りを発信いただきたい。

別紙のとおり、国会議員への要望とした。期待したい。

以上、急ぎのため、また帰宅してまもないため乱筆乱文はお許してください。感じたところを記載し、その他は別紙の報告、参考資料をもとに、今後の復旧支援へのご検討を期待いたします。特に、いまだその甚大なる震災がみえてこない、益城町や南阿蘇地域等の支援は、長期的視点での検討を願います。

*上記以外のポイント

○南阿蘇、内牧等の支援

基本は、自衛隊。熊本県老協は、会長の荒尾市から片道6時間かかることを、大分県高齢協会長へ、伝達、依頼し、この地域へは、大分県老協より、救援物資が搬送された。素晴らしい連携である。

○県内すべてが、被災地であることから、震災後1週間の実態は混乱が実情。例として熊本市内の特養で、法人で地域へ解放した開かれた救援活動には今後の課題と考える。実態は、要介護者の受け入れ、職員も被災者、どうしてもある程度で一線を引く必要があると法人ごとに経営者が判断するため、たとえば、県会長からの依頼があっても断らずえない状況が続いたこともあり、会長の法人のみが奮闘せざるえない実態もみられた。ただし、全てではないことは付け加える。

○県内の甚大なる被害に対し、だれもが努力されています。各団体の横の連携は今後とも、縦横、点から点へ、そして点から面へ！！みなさんとの協力、協働を期待しています。決して団体毎の協力がとれないなどという、不都合は今後無いように、中央からもしっかりと指示をいただきたい。

○救援物資の搬送の件ですが、全国からの迅速なる対応がとてもよかったと感じます。が、全老協の指示で、佐川急便との連携にて送付いただいたわけですが、救援物資の送付に多額の送付料がかかりすぎです。国はもう少し、迅速なる対応や、人も気持ちに相手に伝わりやすい仕組みを作るべき。私案では、救援物資の搬送は極力、国の負担と感じてます。

○以上、現状と近々の課題を述べたが、実際は長期的展望での課題が多い。特に益城町や南阿蘇の甚大なる被害はいまだ計り知れない。人的資源としての援助は、現行千葉県からは少々無理があると感じる。指摘された義援金等、特に期待されていると感じる。

○家屋の損壊が、大きく報道されている。マンション等も傾き、立ち入り禁止の張り紙も目立つ。20年前の阪神淡路、その後中越、3.11、そして近々では、鬼怒川をはじめとした、常総地区の天災など、そのたびに家屋の耐震に関しては強化が必要など指摘され法的整備も進んできた。が実際、今回公共施設をはじめ、体育館なども、いまだ現行の耐久にそっておらず、残念な結果であった。

また報道では、家屋などの、全壊該当が全体の6割を超えるなどとの報道があるが、少々分母がちがうのではと感じている。つまり、一部損壊がもっとたくさんあり、その実態が把握できていない現状がみられると懸念している。

もっと具体的に述べれば、地震より、台風に関する被害が多かった熊本県では、家屋を守るため、瓦を強化するなど対応をし、守ってきた。が今回はその逆で、多くの家屋の損壊はそのかわらの崩壊から始まっている。ブルーシートにおおわれた家屋をたくさんみられたと思いますが、多くは、地震保険の加入はなく、同時に一部損壊に該当する家屋が目立っていると地元で感じた。罹災証明をおっても、なんの役にもたたないと噂され混乱もある。これまでの経験上、一部損壊には、国からのお見舞金もないと何う。もうすこし、現状とあった、支援体制が必要と感じる。ちなみに、瓦が損壊、雨漏りあり、家屋内少々崩壊で一部損壊がおおいと述べたが、親戚の家屋は、家が初日12cm、次の日に24cmと傾いた。ゴルフボールが転がっていきます。この家屋は、地震保険加入なし、また扱いも一部損壊と伺いました。二度と住めるような家ではないのですが。全壊の判断は、傾きで50cmを通常超えるものと伺います。5年間に購入し、いまだ借入があるなか、また借金して新築？どうにも腑に落ちない実態もあります。

土地柄でしょうか、地震はこないと対応を怠った、熊本県民の実情がこのような結果を生んでいます。ちなみに親戚の傾いた家はやはり、もともと田んぼに近いところを埋め立てたものです。さびしいかぎりです。

現地からのメールによる レポート

現地に行った津川からのメールでの経過記録
(メールより抜粋)

熊本に到着

2016年4月18日

14日より地震発生その後、16日未明には最大規模震度7を越える地震が生じたので、熊本へ帰省し、その際、熊本県荒尾市に在住される、コウノエ会長の白寿園を訪問し、金和部長にご対応をいただき、無事に物資を届けさせていただきました。

物資は、ledランタンを15個、簡易ledライトを25個、簡易ガソリン缶を2缶、アイソニック飲料ゼリーを40本、水を12リットルを6ダース、お菓子をおみやげにしました。

コウノエ先生とは明日以降電話で連絡を取らせていただきますが、被災地である、熊本県益城町や阿蘇地域へ必要に応じて配給いただければとお伝えいたします。

現状は、益城町や阿蘇地域への被災全般の援助が今後必要と考えます。

同時に熊本市内はこの4日間で400回を越える地震を経験しながらも、少しずつ落ち着きを持ってきています。



熊本に到着



熊本に到着



ライフラインは、電気はokで明日までには水道の完全復旧を目指し、ガス関係も徐々に復旧状況です。

しかしながら益城町や阿蘇地域への実態は全く見えず、相当な支援を要すると感じます。

熊本県でも会長の指示で、白寿園から益城町へ本日も物資を送付したようです。

ちなみに我が実家ですが、16日未明の地震で、玄関がすべて崩れた状況です。瓦が崩壊した流れからのように感じます。



母も一人で、相当な不安や恐怖があったと予測します。このような市内を始め、益城町や阿蘇地域での戸建等の状況は計り知れない状況です。

熊本レポート

2016年4月19日

17日未明で体感される震度1以上の回数が400回と言いましたが、昨日夕方までに550回、今朝は600超えと報道されるでしょう。

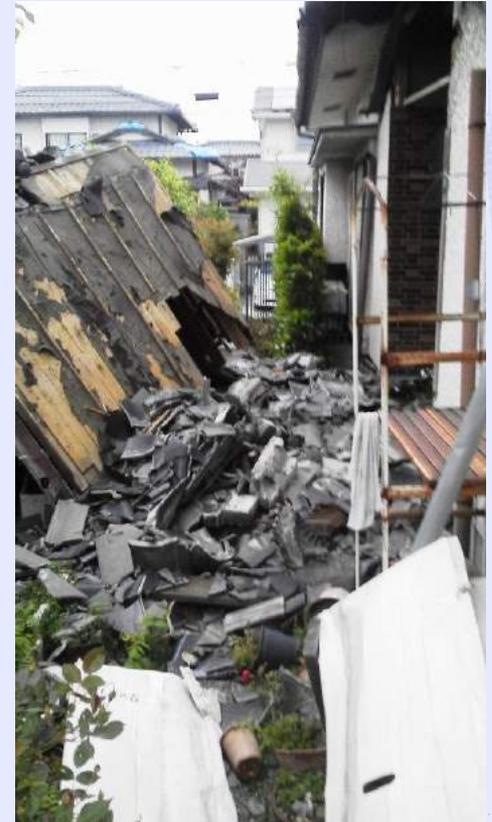
昨日、熊本市内で電気が復旧してきた反面、期待された水道は、結果漏れがたくさん見つかかり復旧はまだ未定と報道、ガスはまだ連絡もない状況です。

家に戻りたいが戻れない、多くがインフラの整備に希望している状況で、避難所ですら建物内の崩壊を恐れ、報道のように車内でエンジンを止めて寝ている実態もあります。

今は地震がすこしでもおさまり、インフラの復旧に期待する日々です。

被害は熊本市北側に一部あるようですが、基本は南側かつ、益城町を軸に北東そして南西の活断層に沿ってのようです。

私の自宅、中央区出水と、いま避難している美里町、その間で私が育った甲佐町、御船、嘉島、すべて益城町の周りで、その被災は別紙の通りです。



熊本レポート

しかしながら、益城町も、阿蘇地域も報道のみ、現地への立ち入りはできていません。

一昨日、昨日と市役所に連絡するも、現在は救援物資の対応に集中しており、未だボランティアの受け入れ体制も未確定。

報道にもありますが、やはり現場は混乱し、時間を要する状況です。

九州内の特養の仲間からも連絡を受けましたが、現状は物資の搬送のみ、ボランティア参加は今後の予定。

物資面で、特に益城町、阿蘇地域、かつインフラで困っている市内特養へは、助かっているようです。市内はやはり水ですね。水道復旧期待。

写真の崩壊した家は近所の家で、人は不在だったので人的被害はなかったところでは。

あとは自宅です。

屋根がやられて、なんとも言えませんが、本日も母とかたずけに走ります。



大掃除偏 熊本震災レポート

2016年4月19日



外の屋根瓦や、玄関の崩れはしばらく諦め、本日一階の清掃を開始。壁の崩れはありますが、柱はしっかりしており、清掃を開始。

ガラスや割れ物が多いため親戚4名で対応を。かつ36年、物を捨てられない母を口説き物を捨てることに成功。50袋以上となったゴミをどうにか整理いたしました。

一階の一部は一応終了。目処を立たせ、ベット搬入。寝る場所と環境は整いました。

本日予定の水道は結局、不通。

しばらくかかりそうです。ガスは昨日と同じ。目処が立っていません。

2階はとても入る状態ではありませんが、自宅へ帰りたい、帰るといふ母の希望に一步だけチカズキ、手伝っていただいた親戚に感謝です。

どうなるかわかりませんが、多くの被災者がこのように期待していることと思います。

さて、熊本県、熊本市の状況ですが、緊急物資の搬入が主であるとレポートしましたが、いち早く、ボランティアの方々の受け入れに期待したいところでもあります。

そんな気分の一日でした。

大掃除偏 熊本震災レポート

天気は晴れ。明日も晴れで、木曜日から雨の予報。かつ報道通り、余震は止まらず、震度5強が夕方からさらに2回。どうにかおさまっていただきたい。

祈るところです。

林先生から連絡を受け、物品の搬入を伺いました。もし検討いただけるのなら、特養を中心とした介護を要する高齢者のみなさんに、水や日用品、アイソトニック飲料ゼリーなどなど、コウノエ会長へ直接お願いし、熊本県会長より、県内の同志へと必要な搬送をお願いできればと思いました。

益城町や阿蘇地域の震災は、さらに長期化すると思います。

一人でも多くの方に、一つでも安心して、笑顔を取り戻していただければ幸いです。

また地震ですね。困ったものです。

でも熊本人は負けません。



熊本市熊本県への 千葉県からの支援計画

2016年4月20日

千葉県高齢者福祉施設協会

田邊会長

君塚局長

表記の件で、私からの私案を以下に記載します。

白寿園のカナワさんと話をしました。

- ◆ 現在でも多くの法人からの支援物資が届いており、県下の特養へアナウンスし、取りにきていただいているなど、非常に感謝されてます。
- ◆ そこで、カナワさんからは、今後も各法人からの支援物資に期待していますとのことでした。
- ◆ 全国でまとめて、また県下でまとめてと言った話は、理事長等の話し合いでその指示に従うところです。
- ◆ もし各法人から送付いただけるのなら、
- ◆ 直接法人へ搬送いただければ、前記したように対応したいとのことでした。
- ◆ 物質では特に、水、アイソトニック飲料ゼリーなど、オムツよりウエットテッシュ、おしりふきだそうです。あとは使い捨て手袋のニーズが高いとのこと。
- ◆ ご検討ください

津川

神水教会

2016年4月20日



熊本市内の慈愛園です。ホーム前に教会があり、そのなかに乳児院から児童ホーム、特養、養護、ケアハウスなどの福祉事業が立地します。

ご存知とおもいますが、ルーテル教会が設立ですが、古くは宣教師のみなさんが、古くから市民のために設立されたホームです。

特に児童ホームは当初より、施設ではなく、ホームとして、小グループ制で民間のようなホームでみなさん生活されてます。



神水教会

私の友人で、今は、この教会の牧師先生です。

月曜日までは電気もない中苦勞されたようですが、その後、電気、水道、ガスとライフラインが復旧し、高齢者も子供達も元気とのこと。よかったとおもいます。

しかし、先生いわく、いまだ益城町や阿蘇地域など、大変厳しいことや、地震が継続的であり不安や恐怖であったり、でもこの間でもおおくの方々に励ましや、応援や、応援物資などいただき、感謝されてました。同時に同じ市内でも未だ、水道やガスが復旧できない地域が多くのあることを懸念。この場所は助かっているとの話でした。

特養は、ショートステイ含め、定員をすでにこえており、今後もニーズに対応したい。

ただし、介護の主任からは、今日など、震災から、多くの職員がボランティア精神で職務以外でも頑張ってきたことに深く感謝すると同時に、今後の疲れや、いつまで続くかわからない余震の不安を強く強調されてました。

5年前を思い出す出来事でした。

また特に壊れた箇所もなく、助かっているとの話でした。



神水教会

ランダムに慈愛園内のホームです。老人以外はすべて子供のホームです。



神水教会



子供達のホームです。

潮谷そういちろう先生(故)、息子の潮谷愛一先生、そして熊本県知事を歴任され、現在は社事大で教鞭を続ける潮谷義子先生の思いが伝わる伝統ある社会福祉事業は、私が高校1年生の時に始めてボランティアを経験した場所でもあります。

温かい雰囲気や、木緑がたくさんある、特徴は学びたいものです。

再度申し上げますが、ここは熊本市の中心です。



九州学院、大江教会訪問

2016年4月20日

私の母校です 当時の担任先生と会いました。

教会は崩れることなく(^-^)大丈夫 でした。

高校生はボランティアで家に住むことできない人たちのため
炊き出しています。



九州学院、大江教会訪問

熊本市中心にある大江教会です



きれいな教会です
いまの牧師は大学時代の先輩でもあります
よく話をしましたが…



どう考えても私のほうが話はうまかったと＝いまでも確信しています。

教会の手前を改築し 信者のみならず多くの方々に集ってほしいという信念からスタートしたこの場所は いまお坊さんたちとの飲み会にもなっています。

＝少し変かも＝

そしていまの時期は被災者の集いの場
飲み物やお菓子は無料ですからいつでもどうぞ



パイプオルガンを新設し自由の＝は 主人の好みです
スタンドグラスいかがですか？きれいですな

共にこの余震で心痛める方々のために祈ります。

かならず大丈夫だと＝

これ英語で

GOD BLESS YOU =



みなさんにも

GOD BLESS YOU =



砂取小学校

2016年4月21日



今日は、砂取小学校訪問を報告させていただきます。

市内の中心に位置する小学校で、体育館や教室などたくさんの方々が生活を余儀無くされ、頑張っておられます。

私の東京の友人がどうしても、帰省できないとの情報から、私が代理訪問を。

受付でマイクで呼び出していただき、自己紹介。

疲れておられるのに、私に正座して頭を下げられました。

お父さんは息子さんにソックリ？もとい、息子はお父さんにソックリ。すぐに自宅の状況や健康状態を伺うとたった今4日ぶりに親戚のところで、お風呂に入れたことや、自宅左側のブロック塀が隣へ倒れ、非常に迷惑をかけていると、細かくてぶり身振りをいれて教えてくれました。

私が持参した、水やパン・おにぎりなどを見せると、お父さんは笑いながら「津川さん貴方も泊まっていきなよ」と私に言いながら、自分の周りにある、水やお菓子をみせてくれました。

砂取小学校



この親父は (*´▽`*) その後、津川さんは身長あるから、ギシギシと夜中じゅううるさい体育館のドアに油を指すように命じられ、写真の結果です。

お陰ですべての体育館のドアに油をさし、避難されているみなさんに褒められました。

たった2時間あまりの出来事でしたが、大変貴重な経験をさせていただきました。

「帰る」と伝えると、初めてあった私の手を握り「頑張れ、負けるなど」先に言われてしまい……。

ちなみにこのお父さん80歳超えてます。お母さんの年齢は極秘です。



砂取小学校



車で学校を離れる最後の最後まで、お父さんとお母さんは私を見送っていただきました。

バックミラー越しですが、非常に私がホッコリした気分でした。

すべての避難者がこんなに元気とはいいませんが、まだ数日だからという人もいますが「肥後もっこす」の強さと、女性はよくブランケットと言うんですね。

(*´▽`*)

熊本人の良さをお母さん、お父さんにまた教えていただきました。



午前中わがままな母親の買い物で何もできなかったもので、これから大江教会での炊き出しに行ってきます。

わたしのお母さん？はいはい、同じ高齢者、優しくできるように努力いたします。

雨が激しい今日です。被害が拡大しないことを祈るのみです。

熊本市から、阿蘇に向けて

2016年4月23日

熊本市から、阿蘇に向けて走ってみました。

市内を抜け、菊陽町、大津市と、大津市を越えた写真のところで、交通遮断。

この先に阿蘇の象徴だった赤い陸橋があり、崩壊したとニュースで知りました。

戻って、大観峰へ、懸命なる復旧作業中、道は通れました。
十分に抜けていけます。



熊本市から、阿蘇に向けて

熊本県の代表される、阿蘇の外輪山です。

大観峰の頂上です。店は休業中。展望の最先端に自衛隊が待機。通信基地ですね。

ここまで、来れないと思ってました。懸命なる復旧作業に感謝です。

この展望の先に見えるのが、先ほどの大津市から真下が内牧ですから、現状はここが陸の孤島状態と考えられます。



熊本市から、阿蘇に向けて



内牧までおりてみました

2016年4月23日



外輪山から、真下に下山。ここが内牧温泉で有名なところです。見た限りでは、小学校への避難先で自衛隊が待機、町民のお手伝いされているようです。

道路が幾つかまだ遮断状態。少々時間はかかりそうですが、ここからの今度は下から上を見上げ、阿蘇、外輪山ととても綺麗です。



私の記憶では、小学校5年6年の夏に、野球部の合宿できてましたね。

電車で、みんなで、途中ここへ向かう時に、特徴なのが、スイッチバック方式？の運行でこの内牧温泉へ入るんで、子供だった私たちはとても楽しかったことを思い出します。



とても美しいまちです。

懸命なる復旧作業が、自衛隊のみなさんの手で一つ一つ行われています。

うん、とても美しい山並みです。

内牧までお寄りてみました



復旧したら、やはりこの温泉ですかね。
早く皆さんときたいですね。

いい景色です。

復旧に向けた作業に心から感謝です。

外輪山へ戻り、帰宅します。

次は国道から、近い将来かならず、国道からですね。

故郷ってやっぱりいいものでうね。

思い知らされました。



これから始まり

2016年4月24日

◆ みなさまへ

早いもので熊本へ帰省し7回目の朝を迎えました。

この間私の一方的な報告にお付き合いいただき またたくさんの励ましありがとうございました。特に母に対し、多くの激励をいただきました。心より感謝です。

自宅は未だ水は復旧するも濁り ガスは5月8日を目処の発表あるが未定 雨漏りは激しく お湯もでない… でも母は強い意志で帰宅を自ら決め4日目の朝を迎えることができました。やはり自宅です。

1週間前の夜中に自宅を前にして震えたことを覚えています。
そして連日の余震…そして益城町や阿蘇の報道。

被災した熊本にいる誰もが恐怖の中 懸命に立ち上がろうとしています。

母もそのひとりでしょう。

しかし…益城町で5400棟全壊、一部含む。町の半数が全壊との報道は、立ち上がろうとする被災者にさらなる打撃でありました。

これからはじまり

自宅からたった5キロメートルしか離れていない場所で…ある意味母は助けられたのだと。

阿蘇を象徴した赤い陸橋の新聞報道も 同じく身震いしました。

これが現実です 私の報告とは違うのかもしれませんが。

報道は連日、住宅崩壊、遠い再建、傷ついた山々、被害全容つかめず、そして崩落、橋も日常も…と余震は800回を超えました。

この1週間本当に悔しかったです 情けなかったです つらかったです。

そんな中でも熊本人ひとりひとりが 心にこの痛みを刻み まだ計り知れない被災実態を覚悟しながら 前を向き始めていることは事実です。

ありがとうございました。

一度千葉へ戻ります。

本当にありがとうございました。

母 津川幸子

息子 長男 津川康二(作成者) 妻 恵美子 長男 周 長女 咲樹 二女 咲蘭

後記

2016年4月25日



- ◆ 日曜日の午前、熊本県老人福祉施設協会会長コウノエ先生の白寿園にご挨拶いきました。職員のみなさんが疲れもあると思い、アイスを100本買ってお土産にしました。領収書は田辺会長で(*▽*) 帰りましたら、贈呈いたします。(*▽*)

白寿園のデイの場所を含めたくさんの救援物資は別紙の通りです。

すでに、この場所以外を含め、現在二回転半、この物資が、熊本県内の、必要な施設などに配給され、多くの方々が感謝されていると、園長から伺いました。

米の写真「千葉・・・」これは確かに、長生共楽園林理事長等からの物資ですね。はるばる千葉県茂原市より、到着です。林先生、みなさんから、心から感謝とのこと。この時点では概ね、6日かかっているようです。



コウノエ先生からは、「本当にこれらの物資が助かっており、また、物資以上に全国の社会福祉法人からご心配いただき、迅速に対応いただいた、その気持ちが何よりも、ありがたかったばい！皆様によろしく」とのことです。

その他詳細は、帰宅して報告しますが、以下に幾つか記載します。

後記

先生は感謝のみの言葉でしたが、やはりこれだけの物資を受け取り、運び入れ、そして再度、車へ搬入し、各施設へ搬送し、運搬。職員総出で行っておられますが、大変な作業です。園長をはじめ、金和部長筆頭に不眠不休の実態があります。心配するところです。園長より、今日、25日熊本県老施協の役員会を開き、各地区わけ、担当わけを提案し、速やかな搬送を再度検討されると伺いました。



もう一つは、阿蘇のノロウイルスの発症です。日曜日の新聞で既に報道されてますが、我々専門家としても一番懸念されていた、2次被害への予防対策です。園長からも、すでに千葉県は事前にアドバイスをいただいていたので、おしりふきや手袋、ウエットティッシュなどが送付されましたが、特に今後はこれらの専門的物資の不足に対応して行く必要があると、お話されました。



あとは、この内容と同じですが、レポートも、しました高齢者の単独世帯、または老老世帯の方々の、被害が気になることもお話を受けました。これらの方々が、ご自宅へもどり、必要に応じて、特養利用、在宅要介護者、以外の地域でこまっておられる方々に法人として、これらのおしりふきや手袋、ウエットティッシュなど対応して2次被害への予防対策も検討したいと伺いました。

後記

最後にコウノエ先生、大変な中、笑顔で出迎えていただきました。1週間を超え、疲れもあると思う中、本当に気持ちよく迎えていただきました。先生が素晴らしい方ということや、法人の職員が自身の仕事以外でも、このように尽力される姿に感謝のみです。ですが、長期的な話しであり、先生とも、益城町、阿蘇の被害実態は計り知れない実態もあるため、白寿園のみなさんに頼るだけではなく、すこしでも人的資源のお手伝いなどを検討し、法人の職員の負担軽減も、全国または九州地区に検討いただければと思います。

よろしくお願ひ申し上げます。
津川

